

2016 年 1 月 12 日

プレスリリース

日興アセットマネジメント株式会社

「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1 年決算型)／(年 2 回決算型)」を設定

～ 成長が期待される“ロボティクス関連事業”に携わる日本の企業に着目 ～

日興アセットマネジメント株式会社(以下、「日興アセット」)は、日本の株式の中から今後の成長が期待されるロボティクス関連企業の株式を中心に投資する追加型投信「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1 年決算型)」と同「年 2 回決算型」を 2016 年 1 月 29 日に設定、運用を開始する予定です。募集は 1 月 12 日から行ないます^{*1*2*3}。販売会社は以下のとおりです。

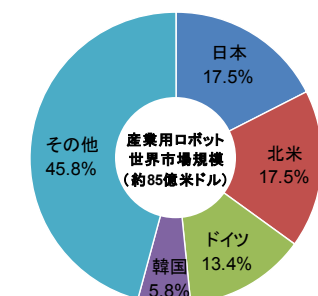
1 年決算型	岩井コスモ証券株式会社、株式会社 SBI 証券、岡地証券株式会社、香川証券株式会社、株式会社群馬銀行 ^{*1} 、第四証券株式会社、楽天証券株式会社 ^{*2} 、ワイエム証券株式会社 ^{*3}
年 2 回決算型	岩井コスモ証券株式会社、株式会社 SBI 証券、岡地証券株式会社、第四証券株式会社、楽天証券株式会社 ^{*2} 、ワイエム証券株式会社 ^{*3}

現在、ロボティクス関連事業は、「IoT」(Internet of Things: 「モノのインターネット」化)や「AI」(人工知能)の活用によって飛躍的な進化を遂げつつあります。「ジャパン・ロボティクス株式ファンド」は、日本の株式の中から、こうした一連の技術を含めたロボティクス関連事業を行なう企業や、ロボティクス関連技術を有効に活用する企業の株式に投資を行ないます。「1 年決算型」と「年 2 回決算型」の決算頻度の異なる 2 つのファンドを設定し、このうち年 2 回決算型では、基準価額水準が 1 万円(1 万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます^{*4}。

日本はこれまで、高い技術力によって世界の産業用ロボット市場をリードする「ロボット大国」の地位を築いてきました。また、電子部品などの分野においても、IT 市場の急速な発展に伴うウェアラブル端末(身に付けて持ち歩くことができるコンピュータ)などの普及によってさらなる小型化・高性能化のニーズが高まっており、今後も技術力を誇る日本企業が優位性を発揮すると期待されます。

産業用ロボット分野で存在感を示す日本企業

【産業用ロボット(電子部品実装機除く)の世界市場規模】
(2011年)

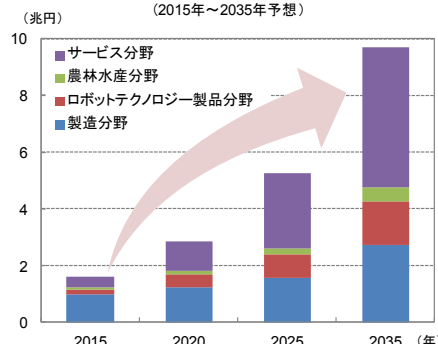


出所: IFR and national robot associations

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

急拡大が見込まれる日本のロボット市場

【日本のロボット市場規模(国内生産量)の予想】
(2015年～2035年予想)



出所: NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)

- *1 株式会社群馬銀行は 1 月 18 日より取扱開始予定です。
- *2 楽天証券株式会社は 1 月 29 日より取扱開始予定です。
- *3 ワイエム証券株式会社は 2 月 1 日より取扱開始予定です。
- *4 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や 分配を行わない場合もあります。

日興アセットマネジメント株式会社

〒107-6242 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー
www.nikkoam.com

急速な少子高齢化によってもたらされる労働力の不足や、介護・医療負担の増加といった日本が直面する課題に対し、政府は「日本再興戦略(改訂)2014」にてロボットによる新たな産業革命＝「ロボット革命」を提唱するなど、ロボットや新技術の活用によってこうした課題を解決しようとする国を挙げての取り組みが始まっています。ロボット革命の実現に向けて作成された「ロボット新戦略」では、ロボットを課題解決の切り札にするとともに、世界の成長産業に育成することをめざし、2020 年までの 5 年間で「集中実行期間」と位置づけて具体的な戦略目標とアクションプランも策定されています。こうした取り組みなども背景に、日本のロボット業界はさらなる成長が期待されています。

日興アセットは 2015 年 8 月、世界各国のロボティクス関連企業を中心に投資する「グローバル・ロボティクス株式ファンド(1 年決算型)／(年 2 回決算型)」を開発し、運用を開始しました。ロボティクス関連企業を中心に投資するという、日本で初めて^{*5} の先駆的な商品性を広くご評価いただいた結果、運用開始から4カ月間で運用資産残高は2ファンド合計で約3,950 億円の大型ファンドに成長しています(2015 年 12 月 30 日現在)。

日興アセットは今後も、投資環境の変化を迅速に捉えた質の高い商品の開発と優れた運用パフォーマンスのご提供に努めてまいります。

以 上

*5 日興アセットマネジメント調べ。

■手数料等の概要

お客さまには以下の費用をご負担いただきます。

＜お申込時、ご換金時にご負担いただく費用＞

- 購入時手数料: 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.24%(税抜 3%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
- 換金手数料: ありません。
- 信託財産留保額: ありません。
※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行えない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

＜信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用＞

- 信託報酬: 純資産総額に対して年率 1.674%(税抜 1.55%)を乗じて得た額
- その他費用: 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率 0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品貸料に 0.54(税抜 0.5)を乗じて得た額)などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。
※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■リスク情報

投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)のみなさまに帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【有価証券の貸付などにおけるリスク】

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者のみなさまに「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した資料です。
- 当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客さまご自身でご判断ください。

日興アセットマネジメントについて

日興アセットマネジメントは、日本そしてアジアを代表するグローバルな運用会社であり、世界の投資家の皆様に一流の投資ソリューションを提供しています。世界 30 以上の国から集まる豊富な人材を世界 11 カ国に擁し、200 名を超える*運用プロフェッショナルが約 17.5 兆円**の資産を運用しています。55 年の実践を経た投資哲学をアジアから世界へ広げていきます。

(上記データはすべて 2015 年 9 月末現在)

* 日興アセットマネジメント株式会社および連結子会社の役社員を含む。

** 日興アセットマネジメント株式会社および海外子会社の連結運用資産残高(投資助言を含む)の 2015 年 9 月末現在のデータ

日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 368 号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会